

「農薬に該当しない除草剤の使用実態」について (その4)

緑地管理協議会 * 事務局

丸和バイオケミカル(株) 清水 悟

はじめに

2019年3月28日付けで厚生労働省・農林水産省・経済産業省及び環境省の連名で「農薬として使用することができない除草剤^{注1)}」の販売等についてとの通知が関係団体に発出されたのを受け、緑地管理協議会は2019年8月に引続き4回目の定点観測的な調査^{注2)}を実施したので続報^{注3)}としてここに報告する。また、コロナ禍前後でのガーデニングや除草剤の使用状況も併せて調査した。

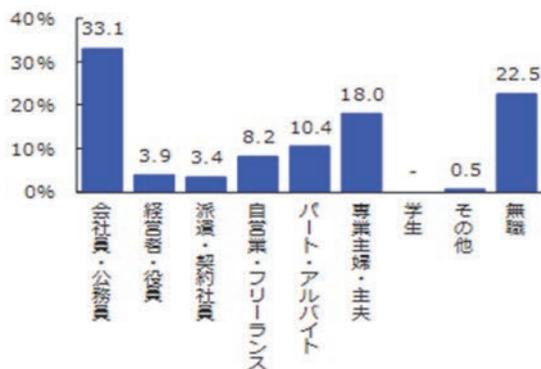
注1: 農薬登録がなされておらず、「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)」で認められた化学物質を利用した非農耕地専用除草剤。以下、「無登録除草剤」と表記。

注2: 新規のモニターに対して実施。これまでのアンケートに協力いただいたモニターは除外。

注3: 第三報は「植調」第55巻第3号に掲載

回答者プロフィール

職業



調査期間: 2021年8月20日(金) ~ 8月22日(日)

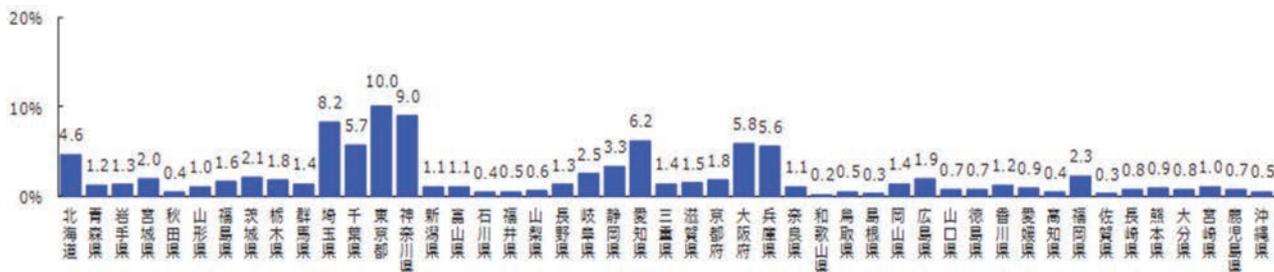
【調査目的】

- A) 商品ラベルの確認状況
- B) 除草剤の使用場所の状況把握
- C) 店頭/ECサイトにおける購入時の「注意文」理解度を含む状況把握
- D) 除草剤の散布時の着衣等の状況把握

* 緑地管理協議会会員

株式会社エス・ディー・エスバイオテック
保土谷アグロテック株式会社
レインボー薬品株式会社
丸和バイオケミカル株式会社

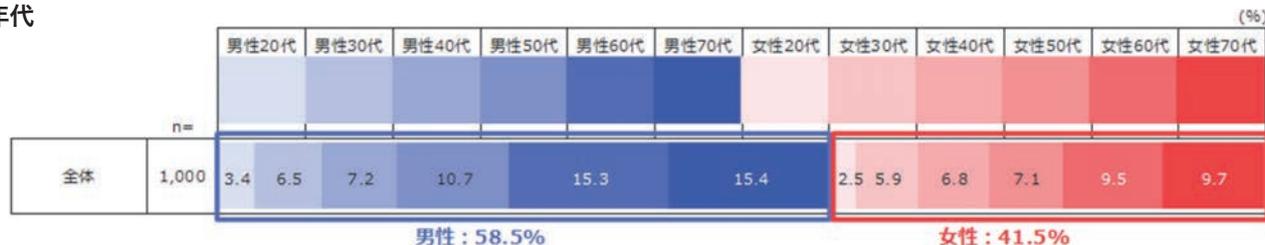
居住地



(n=1,000)

* 回答は全国から寄せられており、人口の割合に概ね準じていた。男女比率も含めこれまで実施した3回のアンケートと同様の傾向を示した。

性年代



調査方法

調査会社のモニター（9,857名）に対し下記の条件でスクリーニングを実施，1,000名を選定し本調査を行った。

- A) 最近1年間で「除草剤」（含む無登録除草剤）を使用した人（対象年齢20歳～79歳）
 B) 本人・同居者が従事する職業に農林業・造園業など日常で農薬・薬品を使用する人は除外

（調査にあたっての留意点）

- ①購入した商品の誤認を回避するため，商品画像で購入商品の特定をした。なお，今回も「無登録除草剤」に粒剤も含めた。
- ②使用実態の把握は「直近で購入・使用した商品」に限定し，できるかぎり複数回答を回避した。
- ③各設問における表示を不規則にするなど，調査の「偏り」をできるだけ回避した。
- ④使用場面を具体的に把握するため，提示画像において「植栽の有無」がイメージできるよう工夫した。また，植栽の有無は「除草剤を散布した場所から1m程度以内」とした。

結果概要

(1) 商品ラベルの確認状況

		(%)			
		よく読んだ	目を通した程度	読まなかった	その他
n=					
2021年全体	1,000	21.3	67.0	11.6	0.1
2019年全体	1,000	18.9	66.8	14.3	
2017年全体	1,000	18.6	66.7	14.4	0.3
2014年全体	971	13.9	66.0	19.7	0.4

「よく読んだ」は微増の傾向にあり，いずれの調査においても「農業登録」を認知している方は「ラベルをよく読む」割合が高い。

		(%)			
		よく読んだ	目を通した程度	読まなかった	その他
n=					
2021年全体	1,000	21.3	67.0	11.6	0.1
製品の登録 農業認知状況	認知者・計	49.1	46.7	4.2	
	非認知者	15.8	71.0	13.1	0.1

(2) 無登録除草剤の使用割合

2017年調査では無登録除草剤のアイテムが増えたこともあり，2014年調査時に比べ無登録除草剤の使用割合が大幅に増加（17%→29.8%）したが，今回調査時の使用割合は

2017年と同程度であった。また，無登録除草剤の「粒剤」の使用率は前回同様，全体の2.1%であった。

		(%)	
		登録農薬・計	無登録農薬・計
n=			
2021年全体	1,000	70.3	29.7
2019年全体	1,000	69.5	30.5
2017年全体	1,000	70.2	29.8
2014年全体	971	83.0	17.0

なお、調査開始以来、「AL 剤」の使用割合が漸増しており消費者の嗜好が伺える。

		(%)		
		液剤タイプ・計	AL剤タイプ・計	粒剤タイプ・計
	n=			
2021年全体	1,000	32.4	49.1	18.5
2019年全体	1,000	34.7	45.2	20.1
2017年全体	1,000	35.1	45.5	19.4
2014年全体	971	35.8	35.8	21.6

*【AL 剤】とは、購入した商品を水で薄めずに、そのまま散布する液体除草剤を指す。

*【液剤】とは、購入した商品を水で薄めて散布する液体除草剤を指す。

(3) 無登録除草剤の使用状況

(無登録除草剤使用者 297 名による複数回答)

全体としては 2019 年調査（無登録除草剤の使用者 305 名の複数回答）と同様の傾向にあるが、家庭菜園での使用割合（1 m 以内に植栽有）が 62.8% と登録除草剤も含めた

全体の使用割合（56.9%）より多い結果となった。一方、花壇での使用（1m以内に植栽有）は 60.8% であった（2019 年 69.8%）。



* グラフ内の () は登録除草剤も含めた全体の使用割合を示す

(4) 除草剤を購入する際の「注意文」の確認・理解について（複数回答）

アンケートにおいて下記の文面を提示し、店頭及び EC サイトにおける注意文の確認状況について調査した。

なお、購入先（複数回答）はホームセンターが 90.3%（2019 年 93.4%）、EC サイトが 14.8%（同 11.7%）であった。

<実査時の表示説明文>

商品ページに掲載している注意文 (例として、2つの注意文を挙げております)	
例①	「こちらの除草剤は、農薬として使用することができません。このため、農作物や樹木・芝・花き等の植物の栽培・管理には使用できません。」
例②	「本剤は農薬として使用できません。」

EC サイトでの購入時について
(EC サイトでの購入経験者ベース)

		(%)			
		見たことがある	見たことはない	わからない・ 覚えていない	
2021年全体		148	28.4	32.4	39.2
製品の登録 農業認知状況	認知者・計	34	73.5		20.6
	非認知者	114	14.9	36.0	49.1

「注意文」を確認した人はECサイトが28.4%(2019年35.0%)、店頭は18.4%(同21.0%)であり、前回より注意文を確認した人は少なくなっていた。なお、前回同様に「農業登録」の認知者が非認知者に比べ顕著に高い割合を示した。

「注意文」の理解度については自由回答(必須)とし意見を求めたところ、全体では「注意すべき点が思いつく」と回

店頭での購入時について
(店頭での購入経験者ベース)

		(%)			
		見たことがある	見たことはない	わからない・ 覚えていない	
2021年全体		978	18.4	38.3	43.3
製品の登録 農業認知状況	認知者・計	164	52.4		26.8
	非認知者	814	11.5	40.7	47.8

答した人は53.7%(2019年54.9%)であった。ただ、「注意文」への理解は様々で「除草剤は農業ではない」などの回答があり、本来「注意文」が伝えたい「有用植物栽培地やその周辺では使用できない」との主旨が伝わり切っていない状況にある。

		(%)		
		この注意文の意味を読んで、 注意すべき点が思いつく	この注意文の意味を読んで、 何に注意すべきかわからない	
2021年全体		1,000	53.7	46.3
性年代別	男性計	585	53.3	46.7
	男性20代	34	61.8	38.2
	男性30代	65	61.5	38.5
	男性40代	72	56.9	43.1
	男性50代	107	51.4	48.6
	男性60代	153	49.7	50.3
	男性70代	154	51.3	48.7
	女性計	415	54.2	45.8
	女性20代	25	64.0	36.0
	女性30代	59	45.8	54.2
	女性40代	68	45.6	54.4
女性50代	71	56.3	43.7	
女性60代	95	57.9	42.1	
女性70代	97	57.7	42.3	

※n=30未満は参考値のため灰色。

「注意すべき点」として思いつく点(主要意見を抜粋)

- 安全性が保証されていない(男性60代)
- 家庭菜園など農作物、花壇の花などがあるところには使わない。(男性70代)
- 果樹などのある場所には不向き(女性60代)
- 近くに枯らしたくない植物があるところで使用する。(男性70代)
- 作物を育てている場所の除草には使用出来ない。(男性30代)
- 雑草以外の植物も枯らしてしまうから(女性20代)
- 除草剤は農業ではない。(男性20代)
- 食べるもの(野菜)の付近で使用不可(女性30代)
- 食用として使う様な果実や野菜などには使えない。(女性70代)
- 人体に悪影響を及ぼす可能性を感じる(女性50代)
- 農業として使うのではなく、除草のみの目的で使うこと(女性30代)

「注意すべき点」として思いつかない理由(主要意見を抜粋)

- 「農業として使用する」とは具体的にどのような行為なのか(男性50代)
- ではどうすればいいのかわからない。(女性60代)
- どこでどのように使っているのかわからない(女性40代)
- なぜ農業として使えないのかわからない(女性50代)
- 安全かどうかかわからない。(女性70代)
- 何に使えるのかわからない(男性40代)
- 家庭用としての範囲がわからない(男性70代)
- 具体的な使用法が明示されていない(男性70代)
- 撒いてはいけない場所や事例を入れて欲しい(男性30代)
- 除草剤が、農業に当たるのか?わかりません(女性40代)
- 農業としての意味が何を意味しているかわからない(男性40代)
- 農業として使う機会がないから(男性50代)

(5) 「除草剤を使用する際に気を付けていること」について
(複数回答)

除草剤使用時に気を付けていることをみると、全体では、「手袋（軍手やゴム手袋）をする」が58.0%で最も多く、「作業後は、手足や顔を石鹸でよく洗う」が52.3%で次い

でいる。また、前回調査時に比べ「農業登録」の認知者・非認知者ともに使用時の安全対策に留意していることが窺える。



※2021年全体の値を基準に降順並び替え

(6) コロナ禍でのガーデニング及び除草剤の使用状況について

【自身で植物を育てている人ベース】



※n=30未満は参考値のため灰色。

【園芸用として直近1年以内除草剤使用者ベース】

(%)

		n=	コロナ禍以前より、 除草剤の使用経験がある	コロナ禍以降で、 除草剤を初めて使用した
2021年全体		974	91.7	8.3
性年代別	男性・計	566	92.6	7.4
	男性20代	31	80.6	19.4
	男性30代	59	84.7	15.3
	男性40代	68	91.2	8.8
	男性50代	103	96.1	3.9
	男性60代	152	94.1	5.9
	男性70代	153	94.8	5.2
	女性・計	408	90.4	9.6
	女性20代	25	84.0	16.0
	女性30代	58	86.2	13.8
	女性40代	68	85.3	14.7
	女性50代	69	94.2	5.8
	女性60代	92	94.6	5.4
	女性70代	96	91.7	8.3

※n=30未満は参考値のため灰色。

コロナ禍で初めてガーデニングに取り組んだ人は3.4%であったが、初めて除草剤を使用した人が8.3%おり、比較的若い人の使用が多く、興味深い結果となった。

最後に

行政は「農業に該当しない除草剤の販売」に関し販売指導の強化に取組み、成果を得ているところであり、当協議会も

販売状況などの情報提供と農業の適正使用の啓発に継続して取組みたい。

一方で OECD 加盟国ではいわゆる無登録除草剤というカテゴリーの商品は存在せず、作物の栽培・管理以外の場面で使用する除草剤についても、農耕地用の除草剤と同様に国による制約・規制を受けた上で商品化されている。我が国においても環境・水質への影響を考慮した場合、いわゆる無登録除草剤も「農業と統一されたリスク管理・基準」が必要と考える。

田畑の草種

白藜・藜（シロザ・アカザ）

杜子春は此度もまた夕日を浴びて、洛陽の西の門の下に、ぼんやりと、背丈ほどもある杖を持って佇んでいるのでした。こうしているとまた、あの白い顎髭を蓄え、それこそ自分が持っているような背丈ほどもある杖を持った鉄冠子という仙人がやってくるような、そんな気がするのです。もともと杜子春は金持ちの息子だったのですが、全財産を使い果たして、その日暮らしにも困る憐れな身分になっていたのです。そんな杜子春に鉄冠子は、三度の夢を見させてくれました。一度目、二度目とも鉄冠子の持つ長い杖で杜子春の影の頭や胸を指し示し、夜になったらそこを掘れと言われて掘ると、黄金が出てきて一夜のうちに大金持ちになったのです。でも贅沢三昧で、数年で使い果たし、元の憐れな身分に戻ってしまうのでした。

三度目には杜子春は鉄冠子のような仙人になりたいと望みました。鉄冠子は、杜子春を峨眉山へ連れて行き、これから先一言も口を利いてはいけないと言って去っていきました。残された杜子春は地獄の責め苦にも耐えながらも声を出しませんでしたが、地獄に落ちていた父母の優しい声に返事をしてしまい、

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

その夢を捨て去りました。

鉄冠子は杜子春の三度の夢のあと、黄金ではなく泰山の麓の家と畑をくれたのですが、やはり洛陽と違って寂しいところで、数年で洛陽に戻ってきたのでした。その時、杜子春の手には泰山の麓で鉄冠子に憧れて作った「藜の杖」が握られていました。

シロザ、アカザともにヒユ科アカザ属の一年草。全国の畑地での代表的な雑草。路傍や空き地にも生育する。春から夏にかけて出芽し、新芽の若い葉の基部が白くなるのがシロザ、赤くなるのがアカザ。特に肥沃な土壌でよく生育する。茎は直立し高さ60cmから150cmにも達する。成長すると茎は太くて堅くなる。特にアカザは乾燥させると軽くて丈夫な杖となり、仙人の杖、長寿の杖などと言われる。因みに、水戸黄門が漫遊した時に持っていた杖も藜の杖だったとか。近年、シロザは路傍や空き地で見かけるがアカザはほとんど見かけなくなった。

「藜」の字を充てて「アカザ」と読ませる。「シロザ」については「白藜」と充てて「シロザ」あるいは「シロアカザ」と読ませる。分類としてはシロザが母種でアカザが変種である。